

令和3年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	秋冬期における一、二年生草花の展示栽培（マトリカリア）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	渡辺 智之, 山口 次郎, 今井 万葉, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（2年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。

2 方法

(1) 供試品種：マトリカリア（5品種，図1）

アマゾン	（黄八重）	<ミヨシ>
シャンパン	（白一重）	<ミヨシ>
バヤ	（白八重）	<フクカエン>
ダブルイエロー（パルセニュームシリーズ）	（黄八重）	<ムラカミシード>
クラウンホワイト Imp（パルセニュームシリーズ）	（白八重）	<ムラカミシード>

(2) 試験区の構成・規模

各品種 20 株（10 株×2 反復）

(3) 耕種概要

ア 試験圃場：新潟市南区（新潟市農業活性化研究センター内鉄骨ハウス4）

イ 播種・育苗：7月15日，200穴セルトレイ，50%遮光ハウス

ウ 定植：8月24日

エ 栽植様式：畝幅 80 cm，条間 40 cm，株間 30 cm，2 条植え（8,333 株/10 a）

オ 施肥：基肥（kg/10 a）N-P₂O₅-K₂O= 10-10-10
追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

カ 電照：定植直後より日長延長（日没後～PM10:00）

キ 保温：11月8日から保温開始（二重カーテンにて）

ク 摘芯：抽苔開始を確認して，適宜摘芯。

(4) 調査項目

採花日，採花本数，切花長，莖径，節数，側枝数，花径，切花重
※年内採花を想定しているため，12月23日で調査終了

3 結果の概要

(1) 全ての品種で発芽は良好で，定植後の生育も大きな問題はなかった。

(2) シャンパンの開花が最も早く11月4日から採花開始し，次いでバヤ，アマゾン，ダブルイエローと続いた。クラウンホワイトは発蕾していたが調査終了までに開花に至らなかった（表1，表2）。

(3) 株あたり採花本数はバヤが3.2本と最も多く，次いでシャンパン，アマゾンとなり，ダブルイエローが1.4本と最も少なくなった。総枝数は全品種で株あたり3～3.7本であったが，未採花枝（発蕾しているものの調査終了日までに開花しなかった枝）と未分化枝（調査終了時点で蕾が確認できなかった枝）により，採花本数に差が出た（表2）。

(4) 切花長はバヤのみ86.3 cmで，他品種は100 cm台となった。側枝数は13.5～15.1本となった（表1，図2）。

(5) 保温のためにハウスを締め切るようになると灰色カビ病の発生がみられた。

4 まとめ

本試験では、本来秋播きで春咲きのマトリカリアを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。厳暑期の播種・定植栽培であるため、育苗時の遮光、定植後のミスト散布などの処理を行った。クラウンホワイトは2年連続で、調査終了日までに採花ができなかったため、本作型での年内採花が難しいと考えられる。また、他品種でも採花残りがあったため、播種・定植時期を早めることでより採花率を上げることができると考えられる。植栽は本試験程度か4条の千鳥程度(16,667株/10a)が妥当と思われる。また切り残った株や切下株は、切り戻しをし再度発生する芽を整理することで次年も採花が可能である。なお、今年度は設備の故障により試験途中から電照が点灯していなかったため(時期不明)、来年度再試験を行なう必要がある。



図1 品種別花写真

表1 マトリカリア切花結果

品種名	播種日	採花日			到花日数 (日)	切花長 (cm±S.D.)	
		平均	開始日	終了日			
アマゾン	7/15	12/12	11/19	12/23	150.4	106.8 ±5.9	
シャンパン	7/15	11/29	11/4	12/23	137.6	103.1 ±16.0	
バヤ	7/15	12/3	11/9	12/23	141.4	86.3 ±5.0	
ダブルイエロー	7/15	12/20	12/1	12/23	158.1	109.5 ±7.4	

品種名	花径 (cm±S.D.)	茎径 (mm±S.D.)	節数 (節±S.D.)	側枝数 (数±S.D.)	切花重 (g±S.D.)
アマゾン	2.3 ±0.1	6.9 ±0.8	32.4 ±3.7	±13.8 ±2.6	103.5 ±30.4
シャンパン	2.5 ±0.1	6.1 ±1.0	25.8 ±3.6	±13.5 ±1.7	91.4 ±37.7
バヤ	2.4 ±0.1	6.5 ±0.5	30.9 ±2.7	±15.1 ±2.6	88.1 ±26.0
ダブルイエロー	2.3 ±0.1	7.4 ±0.7	34.4 ±4.0	±14.9 ±3.0	117.6 ±45.1

(n = 10)

表2 採花時における採花数にかかる測定結果

品種名	採花枝数 (1)	未採花枝数 (2)	未分化枝数 (3)	総枝数 (1+2+3)	株あたり 採花本数	未採花 株数	株あたり 枝数
アマゾン	39	11	10	60	2.1	1	3.0
シャンパン	43	13	14	70	2.3	1	3.5
バヤ	63	9	1	73	3.2	0	3.7
ダブルイエロー	27	21	11	59	1.4	1	3.0
クラウンホワイト Imp	0	46	12	58	0.0	20	2.9



図 2 切花姿 (シャンパン)